

1 部門目標

- ・救急科専門医が救急外来（ER）ですべての救急患者に対応する救急科を立ち上げる。
- ・内科系・外科系を問わずあらゆる救急疾患に対し適切な初期診療を提供し、他科と協力して治療にあたる。
- ・断らない救急を目標とし、千葉市の救急医療体制に貢献する。
- ・救急外来診療を通じて初期研修医教育の充実を図る。

2 業務体制・スタッフ

- ・救急科専従医：織田成人
- ・救急科スタッフ（兼任）：川名秀俊、加藤真優、廣瀬陽介
- ・非常勤医：森田泰正、石垣佳織、中島聡美
- ・初期臨床研修医：1～2名

3 業務実績

救急科受け入れ患者数 1521名

帰宅 1059名

入院 363名

他院へ搬送 99名

救急搬送件数（千葉市のみ）

平成 31 年度 令和元年度

小児 1464 1525

成人 1784 2841

合計 3248 4396

4 1年間の総括

これまで救急科専門医が専従していなかった当院で、主に成人の救急患者の初期診療を担当し、各診療科医師と協力して治療にあたる救急科を新たに立ち上げた。できるだけ多くの救急患者を受け入れられるように、救急隊からの専用電話の設置、救急室（ER）整備と看護師 2 名の常駐、SPD による検体搬送の導入、情報共有のためのホワイトボードやスピーカーの設置、5 床の経過観察ベッド（中央処置室）の優先利用などを行った。これにより、1 日最大 16 件の救急車の受入が可能となり、年間で約 1500 件の救急患者に対応した。また、薬物中毒や外傷患者で入院が必要な場合は、救急科入院として対応できる体制を構築した。

これらの結果、千葉市の救急医療体制に貢献できたと考えられる。また、研修医がローテートで2ヶ月間救急外来に専従することで多くの症例を経験でき、知識や技能の習得に役立った。

5 今後の目標

- ・現在は平日の日勤帯（朝8時～夕方5時）のみの対応であるが、今後は救急科専従医を増やして、ライフワークバランスを意識した上で、準夜帯や土日・休日へと徐々に稼働時間を拡大していく。
- ・院内で発生した救急事案に対して、救急科主導のMETチームによる院内急変対応システムを導入する。
- ・現在、専従医のいないICUを、集中治療に精通した救急科専門医が管理運営できるようにする。